

## 変える元年に応える

株式会社 IHI  
取締役 常務執行役員  
高度情報マネジメント統括本部長

水本 伸子  
Mizumoto Nobuko



IICの皆さま、「IIC REVIEW」第60号の発刊おめでとうございます。

第60号は、各事業部の売りの製品・技術をアピールする特集号で、IICの総力を示す本号に、祝辞を寄せさせていただくことをとても嬉しく思います。

私は、今年4月にIICの主管部門である高度情報マネジメント統括本部（略称：高マネ統括）の、3代目本部長に就任いたしました。高マネ統括は、グローバル・営業統括本部、ソリューション・新事業統括本部とともに、グループ経営方針2013で3つの共通機能の一つとして発足いたしました。事業部門のビジネスモデル変革を加速するために、グループ経営方針2016では、さらなる機能の強化が期待され、一昨年、高マネ統括には情報システム部、グローバル統括には営業本部、そして今年、ソリューション統括には新事業推進部が統合されました。

今、高マネ統括の仕事にとってもやり甲斐を感じ、正式肩書きではありませんが、IHIグループのCDO（Chief Digital Officer：最高デジタル責任者）を自負しております。

私は、昭和57年に石川島播磨重工業株式会社に

入社し、初の女性研究員として、技術研究所（横浜）流熱部に配属されました。IICが、現在の「株式会社IHI検査計測」に社名変更する前の、「石川島検査計測株式会社」として発足した年です。同年の7月には、研究所に「風洞技術センター」が新設され、私は、当時の技術研究所の3大実験設備（風洞、水槽、耐震）の一つである風洞を担当いたしました。

22年間の研究所勤務で、IICの皆さまとは、共に仕事をする機会が多く、一人では制御できない大型風洞の試験を一緒にやっていただき、営業の方とお客様を訪問したことを懐かしく思います。その後、IICの成長と共に、私もいろいろな仕事を経験いたしました。前職の調達企画本部では、調達先の品質不良検査対応で、IICの皆さまのお力をお借りしました。研究所を離れてからも、毎回「IIC REVIEW」に紹介される、さまざまな記事を楽しみに拝読しております。

さて、高マネ統括は、前任の2人の本部長（菅GM、村野GM）の下、IoT / AIを駆使して、「製品・サービスの高度化」「ものづくりの高度化」を進めてまいりました。現在推進している、DX(Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション)

は、デジタルの力で IHI グループのビジネスモデルを変える取り組みです。IHI グループの工場や建設現場の可視化、製品のリモートモニタリングにとどまらず、蓄積されたデータから、お客様の気づいてない価値を発見して、お客様に感動を与えることを目指しております。

昨今、新聞を見ると、「AI」とか「ビッグデータ」という言葉が出ていない日はありません。「AIやロボットで、10年後には、今ある仕事の半分がなくなる」という話もありますが、恐れることはありません、AIは道具です。AIをうまく使うには、そこにどんなデータを投入するか、そのデータの量と質が、出てくる結果の価値を決めます。

今年は、グループ経営方針 2016 の最終年です。

「変わる」がなかなか実現できない中、4月の総合部長会では、満岡社長が、今年は、「変える元年！」と宣言されました。部門を越えて、チームで、そしてコミュニケーションを徹底して変える。私たちは、DXでそれに応えようとしております。

世界中が一斉にDXを目指している中で、IICが得意とする検査・計測で得られたビッグデータや、お客様の現場に行かれる皆さまからの情報は、IHIグループの宝物となりうるものです。お客様の現場の情報を、営業、設計、そしてサプライチェーン全体につないで製品を変える。皆さまともにDXを推し進め、変える元年に応えましょう。

IICのこのような時代に即した発展とIIC REVIEWのさらなる充実をお祈りいたします。